

## コラム 基本的視点でひらく 学びのトビラ

### ～ みんなでつくる、こどもの学び ～

小学校と中学校が防災・減災をテーマにしたカリキュラムの作成や合同の防災授業に取り組んでいる中学校区があります。ある授業では、子どもたちが消防署や区役所、地域の人たちと一緒に、消火器や毛布の運搬、防災ディスカッション、心肺蘇生等、被災した際を想定した実際の活動を体験しました。活動中には、中学生が小学生をサポートするなど、それぞれの立場や役割に応じて実践する姿が見られました。

地域や関係機関との連携により、それぞれの専門性（強み）や資源を生かす取組は、社会や生活と学びを関連づけ、子どもたちの興味・関心を高める教育活動として実践されています。



煙体験を行う小学生と中学生



区役所自治推進課職員の講演



倒れた人を毛布で運搬する体験



防災授業を通して、自分たちに何ができるかを他校生・中学生と一緒に考える良い機会となりました。また、中学生と接する機会ができて、中学に進学するのが楽しみになりました。（小学生）

防災ディスカッションでは、1 つの目的に対して、皆で解決しようと主体的に考えることができ、楽しい授業になりました。小学生と接する貴重な機会になっています。（中学生）



消防署、区役所、地域、小学校と中学校が一堂に会して本番さながらの訓練をするのは意義深い。（地域住民）

## 第4章 プランの推進体制

# 第4章 プランの推進体制

## 1 プランの推進体制

第4期プランを進めるにあたり、教育行政をよりよいものにし、市民への説明責任を果たし、信頼性の向上を図ることを目的として、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づき、毎年教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行います。基本施策の目的（ゴール）に対する各年度の達成度や進捗状況の点検を行ったうえで、取組の課題や有効性を検証します。その結果を踏まえ、取組内容・手法の工夫や工程の修正、社会状況の変化に応じた見直しや新たな施策の立案など、必要な改善・見直しを行い、基本施策の目的（ゴール）に向けて取り組みます。また、児童生徒の現状を把握し、適切に取組を実施するための調査を実施します。

さらに、今後は、学校だけでなく、家庭や地域、そして区役所などの行政機関との連携・協働が一層重要になります。子どもたちを地域社会全体で育てるために、家庭や地域の教育力を高める取組を進め、社会全体で、「それぞれの世界へはばたく“堺っ子”」を育む環境を整備します。

R-PDCA サイクル



## 2 成果指標一覧

基本施策の目的（ゴール）の達成度や進捗を測るための指標である成果指標は、基本施策を評価するための参考数値であり、この数値のみをもって基本施策の成果とするものではありません。基本施策の評価は、取組の進捗状況等を踏まえて総合的に行います。

### 基本方向性1 子どもが身につける力

子どもが心身を成長させ、自ら学び、考え、判断し、行動できる力を育みます。

基本施策1 確かな学び				
ゴール		成果指標	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
自ら学びを進めることができる子ども	新規	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うと答えた児童生徒の状況スコア（※1）	小6：68.6 中3：65.4	小6：74.0 中3：70.0
	新規	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思うと答えた児童生徒の状況スコア（※1）	小6：70.0 中3：63.5	小6：75.0 中3：70.0
	新規	学力が伸びた児童生徒の割合（※2）	小5国：77.5% 小5算：68.7% 中2国：59.4% 中2数：79.1%	小5国：83.0% 小5算：74.0% 中2国：70.0% 中2数：84.0%
基本施策2 豊かな心				
ゴール		成果指標	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
未来を明るく語り、前向きに社会へ向けて進むことができる子ども	新規	「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	小6：78.0% 中3：76.6%	小6：85.0% 中3：83.0%
	新規	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	小6：78.9% 中3：69.3%	小6：81.0% 中3：72.0%
基本施策3 健やかな体				
ゴール		成果指標	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
自らの健康を育み守ることができる子ども	新規	食に関心を持ち、自ら健全な食生活を実践しようとしている児童生徒の割合	小5：87.7% 中2：85.9%	小5：90.0% 中2：90.0%
	新規	新体力テストの総合評価A～C判定の児童生徒の割合※3	(令和6年度) 小5：59.3% 中2：71.6%	小5：64.0% 中2：74.0%
	新規	「運動やスポーツをすることは好き（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	(令和6年度) 小5：87.8% 中2：81.5%	小5：89.0% 中2：83.0%

※1（当てはまる（％）×3+どちらかといえば、当てはまる（％）×2+どちらかといえば、当てはまらない（％））/3として算出

※2 IRT（項目反応理論）を活用した堺市学力・学習状況調査において学力レベルを伸ばした児童生徒

※3 総合評価は、新体力テストの8項目の得点を合計し、A～Eの5段階で判定したもの（Aが最も得点が高い）

新規：社会状況の変化や新たな課題への対応を踏まえ、第4期プランで新たに設定

継続：これまでの取組の進捗等を踏まえ、第3期プランから引き続き設定

現状値：より精緻な分析と目標値の設定に向けて、令和7年10月時点の最新値を記載

調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	本市では、子どもが「総合的な学力」を身に付けるために、子どもが自ら課題を見つけ、学びの内容や、学びの方法を選択したり表現したりすることができるような主体的な学びを進めています。子どもたち自身が、自ら考え、自ら取り組む意識が高まっているという実感を持つことは、自ら学びを進める力が育まれていることを表す根拠の1つになると考えました。
全国学力・学習状況調査	本市では、子どもが「総合的な学力」を身に付けるために、子どもが学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることで、よりよい未来を作っていくとする行動力につながると考えています。子どもがそのような学びの実感を持つことは、自ら学びを進める力が育まれていることを表す根拠の1つになると考えました。
堺市教育委員会調べ	「総合的な学力」の向上に向けて、個々の児童生徒の学力状況に着目し、それぞれに応じた支援を行うことは重要です。学力の伸びた児童生徒の割合が向上することは、つまずきのある子どもへの支援等、個々の児童生徒に応じた実践ができていることの根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	子どもが前向きに社会へ向かって進むために、多様な文化や価値観を尊重できる豊かな心の育成は重要です。自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う児童生徒の割合が増えることは、他者の異なる意見や考えを前向きな姿勢で受け入れ、理解しようとする心が育まれていることを表す根拠の1つになると考えました。
全国学力・学習状況調査	持続可能な社会の創り手として、子どもたちが主体的に社会に参画することは重要です。地域や社会のために何かしてみたいと思う児童生徒の割合が増えることは、子どもたちに社会参画への意識が育まれていることを表す根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
堺市教育委員会調べ	栄養バランスのとれた食事をとり、生涯に渡って自らの健やかな体を育み守る力は、食育の取組を通じて育成する必要があると考えます。食に関する子どもの意識や行動を測ることは、食育の取組の成果を評価するための根拠の1つになると考えました。
全国体力・運動能力、運動習慣等調査	児童生徒が将来にわたって健やかに過ごすために、体力の向上は重要です。児童生徒の体力水準を客観的に把握し、低位層（D・E判定）への効果的なアプローチを行う体力向上に向けた取組の成果を評価するための根拠の1つになると考えました。
全国体力・運動能力、運動習慣等調査	子どもが自らの健康を育み守ることができる力は、体育・保健体育科の授業や体力向上の取組を通じて育む必要がある態度であると考えます。運動やスポーツをすることが好きと思う児童生徒の割合の増加は、授業等の成果を評価するための根拠の1つになると考えました。

第1章  
本市の概況・  
本市の教育理念

第2章  
教育を取り巻く  
現状と課題

第3章  
プランの内容

基本的方向性1

基本的方向性2

基本的方向性3

第4章  
プランの  
推進体制

資料編

基本方向性2 こどもの学びを支える教職員・学校の姿

誰一人取り残さず、こどもの学びを支えます。

基本施策4 学校マネジメント力			
ゴール	成果指標	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
すべての教職員とこどもが安心して学び、働き、成長できる学校	継続 前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合	小：72.9% 中：83.7%	小：80.0% 中：86.0%
	新規 「私たちの職場では、お互いに理解し認め合っている（そうだ・まあそうだ）」と答えた教職員の割合	82.4%	90.0%
	新規 勤務時間外在校等時間が月平均45時間以下の教員の割合	(令和6年度) 76.4%	87.0%
基本施策5 誰一人取り残さない教育			
ゴール	成果指標	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
こどもの学びの機会を保障し、多様な学びの場と学習方法が選択できる学校	新規 「これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	小6：82.4% 中3：76.4%	小6：90.0% 中3：85.0%
基本施策6 こどもの安全・安心			
ゴール	成果指標	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
こどもが安全・安心に過ごすことができる学校	新規 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	小6：74.8% 中3：79.6%	小6：80.0% 中3：85.0%

調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	課題が複雑化・多様化するこれからの学校で教育活動を行うにあたり、多様な主体との連携を行う等、自校以外との関わりを持ち、それぞれの強みをいかすことで、多くのアイデアや工夫が生まれやすくなります。様々な連携を通して、教職員の働き方やこどもの学びにも選択肢が増え、多様な実践に繋がることが期待できます。 これからの学校マネジメントにおいても、こうした視点を取り入れることは重要であり、第3期から継続して、近隣の小学校と小学校、小学校と中学校の連携の広がりを測ることが、その根拠の1つになると考えました。
ストレスチェック調べ	管理職のマネジメントにより良好な職場環境を構築することが、教職員それぞれのウェルビーイングの向上につながると考えています。お互いに理解し認め合うことができている職場環境で働いているという教職員の実感は、ウェルビーイングの向上が図られる職場環境であることの根拠の1つになると考えました。
堺市教育委員会調べ	本市では、長時間勤務の解消や職場環境の改善に向けて、教職員の働き方改革に取り組んでいます。勤務時間外在校等時間について測ることは、学校園、教育委員会事務局での取組改善等を客観的に測ることができ、働き方改革の成果を評価するための根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	様々な特性のあるこどもたちが授業を受け、それぞれ「自身にあった学びができた」と実感することは重要です。本成果指標を通して、教職員が専門性や指導力を生かして、児童生徒の個々の状況にあった学習の機会や学習方法を提供し、指導を充実できているかを測ることは、ゴールの実現に向けた取組等の成果の根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	学校でこどもが安心して過ごすために、「いつでも相談できる」という心理的な安全性は重要な要素です。困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると児童生徒が思えることは、安全で安心な環境や状況を、先生や学校にいる大人が醸成できていることを表す根拠の1つになると考えました。

第1章  
プランの概要・  
本市の教育理念

第2章  
教育を取り巻く  
現状と課題

第3章  
プランの内容

基本的方向性1

基本的方向性2

基本的方向性3

第4章  
プランの  
推進体制

資料編

基本方向性3 子ども・学校を支える教育環境

子どもを中心にすべての人が連携・協働し、学びを支える教育環境を充実させます。

基本施策7 持続可能な教育環境			
ゴール	成果指標	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
適切かつ効果的に学習を行うことができる教育環境	新規 「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられている（そう思う・どちらかといえばそう思う）」と答えた学校の割合	小：68.5% 中：76.8%	小：95.0% 中：95.0%
	新規 学校体育館の空調（冷房）の整備率	(令和6年度) 0%	100%
基本施策8 学校を支える支援体制			
ゴール	成果指標	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
子どもを取り巻く多様かつ複雑な課題に対応する支援体制	新規 学校外で専門機関等の相談・指導等を受けている不登校児童生徒の割合	23.8%	34.3%
基本施策9 社会で支える子どもの育ち			
ゴール	成果指標	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
学校・家庭・地域が相互に理解し、それぞれが多様な機関等と相互支援できる環境	新規 「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった（そう思う・どちらかといえばそう思う）」と答えた学校の割合	小：83.7% 中：90.7%	小：90.0% 中：94.0%
	新規 「読書は好き（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）」と答えた児童生徒の割合	小6：68.6% 中3：51.8%	小6：76.0% 中3：66.0%
	新規 市立図書館における市民一人当たり年間貸出点数	(令和6年度) 4.6点	4.8点

調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	よりよい教育環境の整備に向けて、ICT環境は重要な要素です。ICT機器やネットワークの整備、維持管理等、学校でICTをこどもの学びの活用するためのサポートが適切に実施できているかを測ることは、よりよい教育環境に向けた整備の進捗を測る根拠の1つになると考えました。
堺市教育委員会調査	児童生徒から学校体育館の空調（冷房）設置についての意見が多くあったことから、その整備率を測ることは、児童生徒にとって学びやすい、過ごしやすいよりよい教育環境に向けた整備を実施できていることを測る根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
堺市教育委員会調査	不登校児童生徒の対応に関して、現在は学校内の教職員等だけで対応している事例の中には、学校外の専門機関等と連携し対応する必要がある事例もあると考えられます。そのような課題の解決に向けて、学校外との連携を一層充実させる必要があります。目標値の設定に当たっては全国の割合を参考にし、直近の令和6年度の全国値を目標値にしました。「学校外で専門機関等の相談・指導等を受けている不登校児童生徒の割合」が向上することは、それを必要とする児童生徒を適切に支援するための連携が進んでいるという根拠の1つになると考えました。
調査資料	成果指標設定の背景、理由
全国学力・学習状況調査	子どもたちを地域全体で育む地域とともにある学校、学校を核とした地域の醸成に向けた取組の推進が求められている背景を踏まえ、学校、地域、保護者の相互理解の度合いを把握することは、学校・家庭・地域間で相互支援できる環境が整っているかどうかを測る根拠の1つになると考えました。
全国学力・学習状況調査	児童生徒が読書に親しみを持ち、学びの機会を豊かにすることは重要です。読書が「好き」と感じることは、読書に対する肯定的な態度や関心の表れです。読書が「好き」という指標の向上は、読書に対して、家庭や地域、市立図書館、学校等が連携して読書活動を支援している啓発活動の成果を表す根拠の1つになると考えました。
堺市教育委員会調査	子どもだけでなくすべての市民にとって読書活動は重要です。市立図書館における市民一人当たり年間貸出点数を測ることで、地域全体における読書活動の活発さや図書館の利用状況を確認することができ、図書館が身近な学びや情報の拠点として機能しているか、また、家庭や地域での読書習慣を間接的に測ることができるため、市民の読書活動への啓発等の成果を表す根拠の1つになると考えました。

第1章  
本市の概要・  
本市の教育理念

第2章  
教育を取り巻く  
現状と課題

第3章  
プランの  
内容

基本的  
方向性1

基本的  
方向性2

基本的  
方向性3

第4章  
プランの  
推進体制

資料編

# 資料編

- 1 懇話会
- 2 ワーキンググループの取組
- 3 こどもの意見
- 4 パブリックコメントの結果
- 5 用語解説

## 1 懇話会

### (1) 懇話会開催要綱

(仮称) 次期堺市教育振興基本計画策定懇話会開催要綱

令和 7 年 4 月 1 日制定

- 1 目的  
(仮称) 次期堺市教育振興基本計画（教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）第 17 条第 2 項に規定する基本的な計画をいう。）の策定に当たり、有識者、市民等から広く意見を聴取するため、（仮称）次期堺市教育振興基本計画策定懇話会（以下「懇話会」という。）を開催する。
- 2 意見を聴取する事項
  - (1) （仮称）次期堺市教育振興基本計画の策定に関する事項
  - (2) 前号に掲げるもののほか、本市の教育の現状、課題及び方向性に関する事項
- 3 構成  
懇話会は、次に掲げる者のうち、教育長が依頼する 10 人以内の者（以下「構成員」という。）をもって構成する。
  - (1) 学識経験を有する者
  - (2) 堺市 P T A 協議会から選出された者
  - (3) 堺市こども会育成協議会から選出された者
  - (4) 前 3 号に掲げる者のほか、教育長が適当と認める者
- 4 座長
  - (1) 懇話会に座長を置き、構成員の互選により定める。
  - (2) 懇話会の会議（以下単に「会議」という。）は、座長が進行する。
  - (3) 座長に事故があるとき、又は座長が欠けたときは、あらかじめ座長の指名する構成員がその職務を行う。
- 5 関係者の出席  
教育長は、必要があると認めるときは、懇話会に關係のある者の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。
- 6 会議の公開
  - (1) 会議は、公開するものとする。
  - (2) 会議を公開する場合における傍聴について必要な事項は、堺市懇話会の傍聴に関する要綱（令和 2 年制定）の規定を準用する。
- 7 会議録  
教育長は、次に掲げる事項を記載した会議録を作成しなければならない。
  - (1) 会議の日時及び場所
  - (2) 会議に出席した構成員の氏名
  - (3) 会議の内容
  - (4) 前 3 号に掲げるもののほか、教育長が必要と認める事項

8 開催期間

令和7年4月1日から令和8年3月31日までの間とする。

9 庶務

懇話会の庶務は、教育政策課において行う。

(3) 懇話会開催経過

日時	内容
令和7年5月15日(木)	(1) 次期計画策定に向けた本市の取組 ・懇話会の概要、スケジュール ・策定の趣旨、位置付け ・次期計画策定に向けたコンセプトと取組 (2) 「第3期未来をつくる堺教育プラン」の振り返り ・データからみる5年間の本市の現状、国の動向 ・第3期プランの振り返り(現場の教職員の視点) ・第3期プラン基本施策の振り返り (3) 次期計画の体系整理について ・体系整理案
令和7年7月10日(木)	(1) 第1回懇話会から第2回懇話会までの取組について ・第1回懇話会意見への対応及び方針 ・ワーキンググループ及び子どもの意見の取り入れに関する取組 ・教育理念とめざす教育像について (2) 次期計画骨子案及び基本施策の内容について ・次期計画骨子案 ・基本施策の内容(主な取組)
令和7年10月22日(水)	(1) 第2回懇話会から第3回懇話会までの取組について ・第2回懇話会意見への対応及び方針 ・ワーキンググループと子どもの意見について (2) 第4期未来をつくる堺教育プラン(素案)について ・教育理念とめざす教育像について ・基本施策の内容について ・成果指標について
令和8年2月4日(水)	(1) 第3回懇話会から第4回懇話会までの取組について ・第3回懇話会意見への対応及び方針 ・パブリックコメントの実施結果について (2) 第4期未来をつくる堺教育プラン(案)について ・今後のプラン推進における進捗管理について

(2) 懇話会名簿

◎は座長、○は副座長(50音順、敬称略)

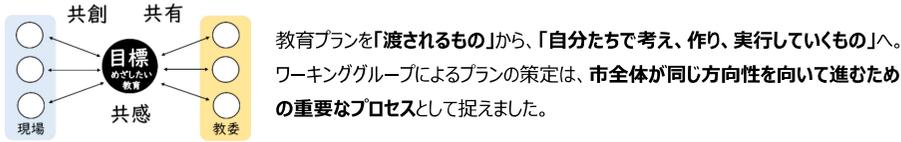
氏名	役職等
かさい こうすけ 葛西 耕介	東洋大学 文学部准教授
かん ゆき 菅 由季	堺市 PTA 協議会 理事
せのお まさとし 妹尾 昌俊	一般社団法人ライフ&ワーク 代表理事
たいざん ゆう 泰山 裕	中京大学 教養教育研究院 教授
たむら とちこ ○田村 知子	大阪教育大学 総合教育系 教授
つるぞえ あや 水流添 綾	一般社団法人 こもれび 代表理事
とびいし たかお 飛石 隆男	堺市子ども会育成協議会 会長
とまの いっどく 苫野 一徳	熊本大学 教育学部 准教授
まつひさ まなみ 松久 真実	桃山学院大学 人間教育学部 教授
もりた えいじ ◎森田 英剛	大阪教育大学 総合教育系 教授



☆

## 2 ワーキンググループの取組

**目的** 市の教育方針や目標を「自分事」、または「自校の事」として捉え、堺市全体で進むべき方向性である**教育ビジョンを共有**する。



**活動** 令和7年2月から約1年間で、計4回実施しました。オンラインでの事前協議やリモートでの参加等、ICTを活用して活動を行いました。

### ①第0回（事前会議）

**テーマ：共通理解**  
それぞれのテーマについて、勤務する中で感じていることや考えていることを共有する。（オンライン開催）

### ②第1回（2、3月実施）

**テーマ：ゴールの明確化**  
各テーマのゴールについて共通理解し、めざしたいゴールを明確化・具体化する。（全体会・分科会）

### ③第2回（5月実施）

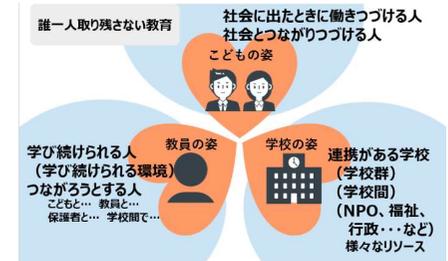
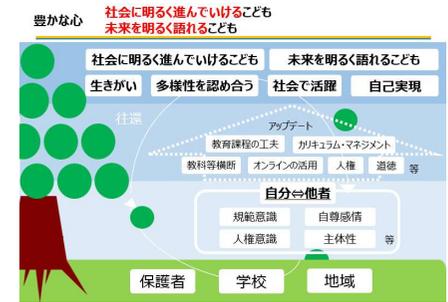
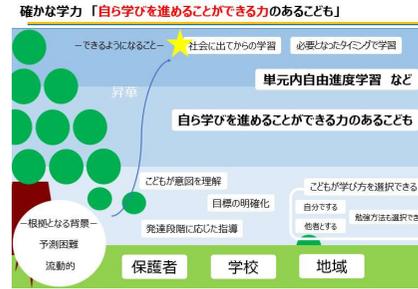
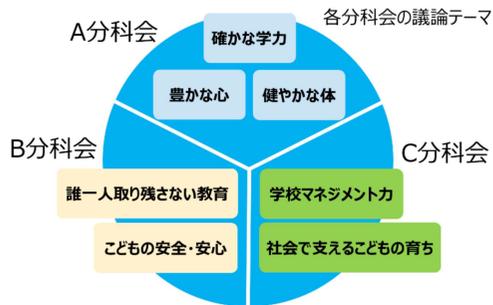
**テーマ：評価と取組の提案**  
ゴールの達成を評価する観点や指標、またゴールに向けた具体的な活動や取組を提案する。（分科会）

### ④第3回（1月）

**テーマ：プラン案の確認**  
プラン案の内容、意見の反映や対応について協議する。（全体会・分科会）

**構成：幼・小・中・高・支援学校から30名、事務局19名**

分科会	Aグループ	18人（学校園12名、事務局6名）
	Bグループ	15人（学校園10名、事務局5名）
	Cグループ	16人（学校園8名、事務局8名）



### 3 こどもの意見

#### (1) 令和6年度 生徒会リーダーフォーラムにおける意見交換会

実施日：令和7年1月24日（金）

テーマ：みんなが「わかる」「できる」ようになる授業とは  
学校で ICT を使ってできること、したいこと  
一人ひとりが安心して通える学校とは



#### 事前～当日の活動の流れ

##### 事前課題

事前課題として、3つのテーマの中の2テーマについて、それぞれ2つずつ、計4つの小質問に対する意見を teams を使って、共有しました。

例) テーマ「みんなが『わかる』『できる』ようになる授業とは」  
→①「私の学校の楽しい授業・学びになる授業」  
②「授業や勉強が『わからない』『できない』時の私の対処法」

##### 教育長との対話

「教育長という仕事のやりがいは」「ICT のよき活用とは」「堺市に来てよかったところは」「なぜ義務教育は中学校までのか」「6月からはじまる給食で楽しみにしているところは」など次々と教育長に質問し、教育長からは深く、かつわかりやすい回答がありました。教育長との対話を通して、この後の協議に向けての気持ちがあつと高まりました。

##### グループ協議

事前課題の内容を共有した後、それぞれ2つのテーマについて意見交換をしました。「うちの学校では～」と、それぞれの学校の代表として、堂々と意見を伝え、また相手の意見も真摯に受け止め、「対話」を深めました。議論はつきることなく、話したい内容、共有したい内容がたくさんあったようです。「時間が足りない！」という声もよく聞こえるくらい、一生懸命に堺市の教育について協議しました。

##### まとめの作成

2つの議題から1つ選んで、模造紙でまとめを作成しました。時間がながい中、構想を練り、役割を分担し、時間内で可能な範囲、かつ内容が深くなるように議論も続けながら、作成していました。互いに「字がきれい」、「それいいな」などとポジティブな声かけをしながら、和気あいあいと作成しました。最後は、グループごとの発表も行い、充実した時間となりました。

#### A グループの意見

##### みんなが「わかる」「できる」ようになる授業とは

簡潔にまとまっている授業  
小話等を途中で入れてくれる授業  
たとえ話があると分かりやすくなる  
一人だけで進めるのは記憶に残りにくい  
勝手に一人でしゃべっている先生の授業は嫌だ  
パワーポイントや授業の構成がうまい先生の授業

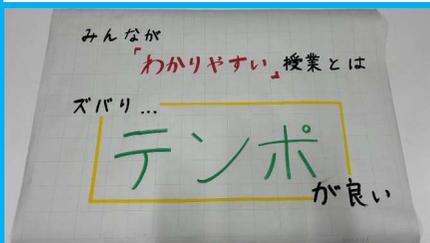
勢いが大事!

##### 学校で ICT を使ってできること、したいこと

月一タイピングマッチ  
ドリルパークみたいな教育系のアプリを入れる  
テストで偏差値を出してほしい  
パワーポイントを使つての調べ学習  
ホワイトボード機能等を使つての授業  
調べたことをパワーポイントで資料作り

##### まとめ

普段受けている「わかりやすい」授業について協議していく中で、「テンポ」が大切だと意見が一致しました。多くの先生の授業が「楽しい」「わかりやすい」という前提のもと、パワーポイントのアニメーションを適切な長さで設定したり、たとえ話や小話が長くなりすぎないようにしたり、適度に質問を生徒に投げかけたりしてくれると、授業がよりわかりやすくなる。とまとめました。



#### 令和7年1月 リーダー講習会 リーダーフォーラム 参加生徒（各校生徒会代表生徒 計16名）

##### A グループ

東百舌鳥中学校 殿馬場中学校 浜寺南中学校 長尾中学校 登美丘中学校  
泉ヶ丘東中学校 (A)

##### B グループ

さつき野中学校 津久野中学校 宮山台中学校 金岡南中学校 泉ヶ丘東中学校 (B)

##### C グループ

月州中学校 大泉中学校 美木多中学校 晴美台中学校 鳳中学校

#### B グループの意見

##### 学校で ICT を使ってできること、したいこと

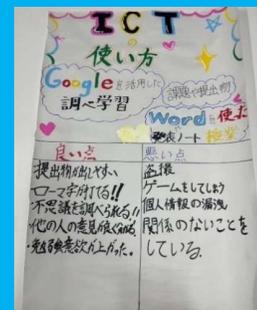
自分で調べる能力の向上  
数学だと図形の動きが分かりやすい  
資料が作りやすくなった 提出物が楽になった  
SDGs の観点からのもい  
(反対意見も...)  
自分で考える時間が減ってしまう  
紙の方がいつでも使える  
個人情報漏洩や盗撮が心配

##### 一人ひとりが安心して通える学校とは

気軽に相談したい  
他人と比べてしまう  
勉強 成績 将来 受験  
様々な不安  
人間関係 ウイルス 自分自身

##### まとめ

中学生の、ICT の活用方法について考え、その中で良い点、悪い点について整理しました。調べ学習で使用したり、課題や提出物で使ったり、発表ノートを用いた発表をしたり、様々な形で使用しています。良い点として、ICT によって提出物が出しやすくなった、ローマ字が打てるようになった、不思議を自由に調べられるなどある反面、不要、不適切な使い方や止めたいと話していました。



#### C グループの意見

##### みんなが「わかる」「できる」ようになる授業とは

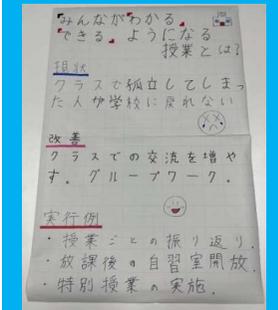
先生と一対一で話せる状況づくりが大事?  
自習室でわからないところをカバーする  
基礎固めのための放課後の自習時間がいい  
毎時間の振り返りが重要  
互いに協力したり、質問したりできる環境  
クラスで学力差があると話しにくい環境になる

##### 一人ひとりが安心して通える学校とは

1か所でも居場所を作つてあげることが大事  
一度タイミングを逃すと戻れない現実がある  
定期的に他クラスと交流することで、クラス替えに対応  
転校生にも配慮した環境づくりが大切  
交流の場があったらいい

##### まとめ

「クラスで孤立すると学校から離れてしまい勉強についていけなくなる」という課題解決に向けて、どのように改善、取組ができるのかまとめました。改善としては、クラスでの交流や、グループワークを増やしてほしいと意見がありました。具体的には、特別授業や自習室の開放などがあれば、より多くの人と交流することができ、孤立を減らせるのではないかとまとめました。



## (2) 令和7年度 小学校における出前授業

### 実施日・実施校

6月11日	赤坂台小学校 (小学6年)	7月1日	登美丘東小学校 (小学6年)
6月19日	少林寺小学校 (小学6年)	7月4日	錦西小学校 (小学6年)
6月20日	土師小学校 (小学6年)	7月15日	美原北小学校 (小学6年)
6月25日	浜寺小学校 (ルールメイキング委員会)	7月16日	庭代台小学校 (小学6年)
		7月17日	福泉中央小学校 (小学5年)

### 授業の流れ (例)

テーマや授業の流れについては、各学校の先生方と事前会議を行い、各学校の様子や児童の状況に合わせて柔軟に計画・実施しました。

#### 導入

教育委員会事務局はどのような仕事をしているのか、また教育プランはどのようなことが書いているのかを学びました。

その上で、出前授業の目的、また意見を表明することの大切さ、意見が通らないこともあります「対話」することで新たな意見を見出したり、深めたりすることの大切さを知りました。



#### 展開

一人ひとり議題について考えた後、グループで話し合いました。児童生徒用パソコンを使ったり、付箋を使って意見を整理したりして、グループの意見をまとめました。

#### 議題例

- ・やる気ができる授業はどんな授業？
- ・どんな宿題ならやりたくなる？
- ・どんな給食がいい？
- ・みんなが自分の学校をもっと好きになるためには？
- ・学校で変えたいものや場所は？
- ・どんなものや場所があれば、もっとよい学校になる？

#### まとめ・振り返り

グループで話し合ったことをそれぞれ発表しました。自分のグループとはちがった意見や考え方を知り、考えを深めました。



子どもたちの意見、またその反映については、別紙でまとめています。本誌とあわせてぜひご覧ください。



### 子どもたちの意見 (抜粋)



- ・自分の意見を持ち、発表する授業を受けたい。(自宅学習ではできない学びがあるから。)
- ・学ぶ教科を自分たちで選択できるようにしてほしい。
- ・自分で計画して授業したい。
- ・一人ひとりに合った家庭学習を作ってほしい。
- ・食品ロスを減らすために給食の時間を増やしてほしい。
- ・自分の苦手なところを改めて勉強する時間をとってほしい。
- ・35分×7時間(息抜きできる時間を増やし、集中できるようにする)の時間割にする。

- ・学校から帰る時に安全パトロールの人が立っていない時が不安になる(見まもり隊の人たちがいつも見てくれて安心できるから)。
- ・こけてもケガが怖いので、グラウンドが芝生になってほしい。
- ・飲み物がなくなったりときや熱中症対策のためにウォーターサーバーを学校に置いてほしい。
- ・洋式トイレの便座をふくクリーナーを設置してほしい。
- ・ろうかを歩いている際に、角でぶつかるかもしれないので、カーブミラーがあれば安心だと思う。



- ・机をもう少し大きくしてほしい(授業中に机がいっぱいになることがあるから・モノが落ちて壊れたりするから・タブレットがあると机のスペースがいっぱいになるため)。
- ・最近、不審者が増えており、その対策のために防犯カメラを設置してほしい。
- ・中に誰がいるか分かり、中の雰囲気よくなるから、職員室を透明なガラス張りしてほしい。
- ・持ち帰りやすく、軽くて使いやすい i-Pad に変えてほしい。

### 出前授業後の感想 (抜粋)

- ・授業を受けて、意見を聞いて、他の人の意見を聞いてこういうのもいいなと思った。
- ・教育委員会は小学校をよりよくするには小学生の意見を大事にしてくれて、がんばってるんやな一と思った。
- ・自分だけのことを考えるのではなく、みんな楽しいと思える事を考えていたからとてもいいと思いました。
- ・もしこんなことが実現したらいいなとか、してくれたからこれが実現したら隣のいろいろな学校がよりよくなると思う。
- ・学校がよりよくなったら、来るのが楽しくなる今日の授業で自分の思いを伝えることができたからよかった。
- ・今回の授業は自分の思いを伝えられるような感じで楽しかった。自分はいつも発表したいけど自信がなくてできないことがあるため、自分の思いや考えが伝わるとうれしい。
- ・いつもの授業では考えないことを考えて楽しかった。
- ・お金や場所の問題もあり、できないものもあるけど、できそうなものを考えてやってくれるからすごいと思った。すごい楽しかった。

## 4 パブリックコメントの結果

### 1 実施目的

第 4 期末未来をつくる堺教育プラン（案）について、堺市パブリックコメント制度要綱の規定に基づき、市民の皆さまからのご意見を募集しました。

### 2 意見の募集期間

令和 7 年 12 月 16 日(火)～令和 8 年 1 月 15 日(木)

### 3 意見募集資料の配架場所

市政情報センター(高層館 3 階)、各区役所市政情報コーナー(6 施設)、図書館(12 施設)、教育政策課(高層館 10 階)、本市ホームページ

### 4 意見提出方法

教育政策課へ郵送、ファックス、電子メール、堺市電子申請システム

### 5 集計結果

意見提出人数 65 名、意見項目数 120 件

### 6 意見等の状況

意見の分類	意見項目数(件)
計画全体について	1
教育理念について	1
めざす教育像について	3
基本的視点について	5
基本的方向性 1 について	9
基本施策 1 確かな学び	3
基本施策 2 豊かな心	3
基本施策 3 健やかな体	3
基本的方向性 2 について	54
基本施策 4 学校マネジメント力	10
基本施策 5 誰一人取り残さない教育	44
基本施策 6 こどもの安全・安心	0
基本的方向性 3 について	26
基本施策 7 持続可能な教育環境	10
基本施策 8 学校を支える支援体制	9
基本施策 9 社会で支えるこどもの育ち	7
こども版	7
その他	14
合計	120

## 5 用語解説

	語句	ページ	説明
あ行	アセスメント	22	一般的には「査定」「評価」「事前評価」などを意味する言葉で、様々な分野で、目的に応じて必要な情報を収集・分析して現状を把握し、適切な対応や支援につなげる過程のことをいう。不登校児童生徒への支援においては、支援の前提として、本人・家族・関係者などから不登校に至る経緯や現在の状態などを情報収集し、分析してその背景や要因を的確に把握し理解すること。「見立て」ともいう。
	いじめ防止基本方針(堺市、学校)	57	いじめ防止対策推進法の規定に基づき、いじめの防止や早期発見、早期対応を総合的かつ効果的に推進することを目的として、国の基本方針を踏まえ、堺市及び学校が策定するもの。
	インクルーシブ教育システム	52,55,56	障害者の権利に関する条約第 24 条によれば、「インクルーシブ教育システム」(inclusive education system)とは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的のもと、障害のある者と障害のない者がともに学ぶ仕組みのこと。この中では、①障害のある者が「general education system」(一般的な教育制度)から排除されないこと、②自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、③個人に必要な「合理的配慮」が提供されること等が必要とされている。
	ウェルビーイング	6,15,30,34,38,42,51,54,76	ウェルビーイングとは、「身体的・精神的・社会的に良い状態」にあることをさし、短期的な幸福だけでなく、生きがいや人生の意義など、将来にわたる持続的な幸福を含む概念。また、個人だけでなく、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念。日本社会では、自己肯定感等の獲得的要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識等の協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを、教育を通じて向上させることが必要とされている。
	親育ち	67	こどもの成長に応じた家庭での教育に取り組むため、保護者が自ら学び育つこと。
か行	学習支援ソフト	43	児童生徒が自分のペースで学習を進められるように支援するためのデジタルツール。教材の配布・回収や学習進捗の管理等のような機能がある。
	学習指導要領	7,41	学校教育法施行規則に基づき、学校の教育課程の基準として定められているもの。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校別(※)に作成され、教科等の目標や大まかな教育内容を体系的に示しており、約 10 年に一度を目安に見直されているもの。(※幼稚園：幼稚園教育要領)
	架け橋期のカリキュラム	44	5 歳児から小学 1 年生の 2 年間を架け橋期とし、この時期のこどもがスムーズに学びをつなげられるようにするためのカリキュラム。
	学校給食衛生管理基準	58	文部科学省が定める、学校給食の安全を守るためのルール。食材の管理、調理環境、衛生検査等を細かく規定し、食中毒等を防ぐことを目的としている。
	学校運営協議会制度	53	学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことを目的に、学校運営への必要な支援に関する協議を行う協議会であり、委員として保護者代表、地域住民、地域学校協働活動推進員等が参画するもの。
	学校力向上プラン	53	各学校園が毎年度作成する学校評価計画書のこと。学校園ごとに重点目標を設定し、具体的な取組・判断基準を基に、達成状況の評価を行うもの。
	カリキュラム・マネジメント	30,43,53	こどもや地域の実態を踏まえて各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領に基づき教育課程(カリキュラム)を編成し、それを実施・評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進していくこと。
	キャリアステージ	53,54	職務経験の段階や組織内における役割の段階のこと。

	語句	ページ	説明
	キャリア・パスポート	46	児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の姿や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのこと。
	教育課程	3,7,43,44,51,56,61,75	学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容をこどもの心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画のこと。編成主体は各学校である。
	教育振興基本計画	1,2,6,15	教育基本法に基づき、国が策定する教育に関する総合計画。
	教育 DX (デジタルトランスフォーメーション)	6,11,35,38,49,51	教育において、デジタルを活用した新たな価値の創造が行われること。
	研修観の転換	53	従来の「講師の講話を聞き、正しい知識を身につけることを中心とした研修」から、「研修に参加する教職員自身が教育実践を振り返り、他者との対話を通して新たな気づきや学びを得ていくことを重視する研修」へと転換を図ること。
	教育 DX ロードマップ	6	「だれもが、いつでも、どこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」という教育 DX のミッションの実現をめざし、関係省庁が連携して施策を推進するための青写真と工程表を整理したもの。
	言語能力	41,43,44	言語を用いてテキスト(情報)を理解し、文章や発話により表現するための力のこと。学習の基盤となる資質・能力の1つとされている。
	個別最適化	6	多様なこどもたちを誰一人取り残すことなく、個々のこどもの資質・能力を伸ばすために、ICT を効果的に活用しながら、個々のこどもの能力や状況等に応じ、こどもたちの意欲を高め、やりたいことを深められる学び。
	個別の指導計画	55	個々のこどもの障害の状態に応じたきめ細かな指導が行えるよう、学校の教育課程や指導計画、個別的教育支援計画等を踏まえ、具体的に個々の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容、方法等を盛り込んだ指導計画。
	コンプライアンス	21,54	組織が法令や倫理といった社会的な規範から逸脱することなく適切に事業を遂行することを意味する言葉。「法令遵守」と訳されることが多い。
さ行	堺・教師ゆめ塾セミナー	53	本市学校園で活動する、または、活動を希望する大学 3 年生以上、大学院生、社会人で本市教員をめざす方を対象としたセミナー。教育実践理論や技能を学んだり、授業中の教育活動においてゆめ塾セミナー指導員の実地指導で学んだりすることで理論と実践を往還させ、次代の学校教育を担う人材を育成することをねらいとしている。活動内容としては、教科学習の指導補助、「総合的な学習の時間」や体験活動の指導補助、行事の補助、登下校時・休み時間・放課後等の活動等がある。
	堺市教員育成指標	21,53	経験や職階に応じた「求める教師像」が「育成の観点」ごとに示されているもので、教員版、管理職版、養護教諭版、栄養教諭版がある。本指標を活用して、経験や職階に応じて身につける力やキャリア形成に展望をもち、教員それぞれが主体的に資質の向上に努め、また、学校園でそれらを共有しながら組織的な人材育成に取り組み、組織力の向上や教育・保育の課題解決を図ることを目的としている。
	堺版コミュニティ・スクール	31,53,67,68	学校・家庭・地域の連携・協働体制を構築するため、保護者や地域住民等が学校経営に参画する本市独自の教育体制。
	ジェンダー	45	生まれつきの生物学的性別とは別に、社会通念や慣習の中で社会によって作りあげられた「男性像」、「女性像」のような「社会的・文化的に形成された性別」のこと。

	語句	ページ	説明
	持続可能な社会	4,6,74	健全で恵み豊かな環境が地球規模から身近な地域までわたって保全され、それらを通じて国民それぞれが幸せを実感できる生活を享受でき、将来世代にも継承することができる社会のこと。
	姉妹・友好都市	44	文化交流や親善を目的として交流を行う国際的な都市と都市のこと。本市の姉妹・友好都市は、パークレー市(アメリカ合衆国)、連雲港市(中華人民共和国)、ウエリントン市(ニュージーランド)、ダナン市(ベトナム社会主義共和国)である。
	社会に開かれた教育課程	61	「資質・能力の三つの柱」「カリキュラム・マネジメント」など、現在の学習指導要領における重要な事項のすべての基盤となる考え方。以下の3つのポイントが示されている。 ①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。 ②これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。 ③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、そのめざすところを社会と共有・連携しながら実現させること。
	情報活用能力	7,11,41,43,44	世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のこと。情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含む。(参照：平成 29 年告示学習指導要領総則)
	情報モラル	11	「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」であり、具体的には、他者への影響を考え、人権、知的財産権等、自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任を持つことや、犯罪被害を含む危険の回避等、情報を正しく安全に利用できること、コンピュータ等の情報機器の使用による健康との関わりを理解すること等をさす。
	人工知能 (AI)	1,6,7,11,49,53	“Artificial Intelligence”の略。人間が持っている、認識や推論などの能力をコンピュータでも可能にするための技術の総称。
	人生 100 年時代	1,42,61	平均寿命が延び、多くの人が 100 歳近くまで生きる可能性がある社会を前提にした考え方。これにより、学校を卒業して働き、引退するという従来の人生モデルから、年齢に関係なく学び続けたり、働き方を変えたり、地域で活動したりと、人生の中でいくつもの「ステージ(段階)」を経験する「マルチステージ型」人生へ変化するため、学び・仕事・休み・地位活動等を組み合わせながら自分らしい人生を築くことが大切になる。
	スクールカウンセラー	57	学校で児童生徒・保護者・教職員の相談に応じる臨床心理士等の専門家。
	スクールソーシャルワーカー	57	教育分野に加え福祉分野の視点から児童生徒がおかれた環境に働きかけ、児童生徒が抱える課題の解決に向けて学校、家庭、関係機関との役割分担を調整する役割を担う専門家。
	スクールロイヤー	57,65	学校現場における課題解決に向け、法的な観点からの助言などを行う弁護士。
	スタートカリキュラム	17	小学校へ入学したこどもが、遊びや生活を通した幼児期の学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるようにするためのカリキュラム。入学当初にスタートカリキュラムを編成し、生活科を中心に他教科等を組み合わせた授業など指導の工夫を行うことや、10～15 分程度の短い時間で時間割を構成するなど弾力的な時間割の設定を行うことなどが求められている。

	語句	ページ	説明
	スペシャルサポートチーム	52,56	校内教育支援教室等と呼ばれる自身のクラス以外で過ごしたいと思う児童生徒を支援するための特別な教室（保健室は除く）等のこと。
	生成 AI	1,6,7,11,49,53	人工知能（AI）の一種で、人間が書いた文章や描いた絵、作曲した音楽等を学習し、新しい文章や画像、音声等を自動で作り出す技術。人間の能力を補助・拡張し、可能性を広げる有用な道具であると捉えられている。教育分野において、その出力は「参考の一つ」であり、最終的な判断と責任は人間が持つべきという考え方が基本。
	静ひつな教育環境	25	秩序ある教育環境の中で児童生徒が活発に活動できる状態。秩序と活気のある学校。
	全国学力・学習状況調査	11,13,15,16,18,23,42,52,74,76,78	全国の小学 6 年生・中学 3 年生を対象に、文部科学省が実施する学力・学習状況調査。教科に関する調査（小学 6 年生：国語・算数、中学 3 年生：国語・数学）と、学習や生活に関する意識調査を実施。 ※小学 6 年生の理科、中学 3 年生の理科、英語は 3 年に一度程度の実施。
	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	42,74	小中学生の体力の状況を把握・分析し、こどもの体力低下を改善するために文部科学省が実施する調査。全国の小学 5 年生と中学 2 年生を対象に、握力・上体起こしなど 8 種目の実技調査、運動習慣・生活習慣・食習慣などに関する質問紙調査を実施。
た行	多文化共生	44	言語や文化等が異なる人々が、互いの文化的な違いを尊重し、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと。
	地域学校協働活動	31,62,67,68,77	地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担うこどもたちの成長を支えていくそれぞれの活動を合わせた総称。具体的には、読み聞かせ、登下校の見守り、学習支援、学校行事、地域活動等、幅広い地域住民等の参画によって行われる様々な活動があり、それぞれの地域・学校の実情や特色に応じて行う多様な活動のこと。
	チーム学校	30,58	教員だけでなく、多様な専門性を持つ職員（スクールカウンセラー、栄養教諭、看護師等）が一つのチームとして連携・協働し、それぞれの専門性を生かして教育活動を行う学校のあり方。
	同和教育	45	日本社会に根強く残っている封建的な差別をなくし、国民のすべてが自由で豊かな生活を営むことのできる社会を築くことを目的として、特に差別の典型である被差別部落の問題を正しく理解し、そこに存在するいつさいの差別を除去する力をもった国民を育成する教育。
	特別の教科 道徳	45	平成 27 年 3 月、学習指導要領が一部改正され、道徳が「特別の教科」として位置付けられた。いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層ふまえた体系的なものとする観点からの内容の改善、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることが求められている。
は行	発達障害	55	自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するもの。
	ファシリテーション能力	53	教室や会議などで、参加者の意見を引き出し、話し合いを円滑に進める力。児童生徒の主体的な学びを支えるために重要とされている。
	フリースクール	22,65	一般的に、不登校のこどもに対して、学習活動、体験活動、相談などを行っている民間施設のことをいう。設立に行政機関の認可等は不要で、民間の自主性・主体性のもとに設置・運営されており、その規模や活動内容も多種多様である。不登校児童生徒の在籍校の校長の判断で、通った日数が出席として扱われることもある。

	語句	ページ	説明
	部活動の地域連携・地域展開	19,62,67,68	少子化や教職員の働き方改革を背景に、学校部活動の教育的意義を継承しつつ、すべてのこどもが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しみ機会を保障するため、学校中心の部活動から地域全体で支える持続可能な活動環境への転換を図る取組。
	包摂性と包括性	51	「包摂性」は、すべてのこどもが排除されずに学べる環境をつくることで、「包括性」は、さまざまな背景やニーズを持つこどもたちを互いに受け入れ、共に学ぶことを重視する考え方。
ま行	学びのコンパス	19,43,48,53	「学びのコンパス」とは「こどもが自ら学びを進める」ための授業の考え方。児童生徒が「なぜ学ぶのか」「どのように学ぶのか」などを考えながら、学びを「自分ごと」として捉えられるような教育活動を進めている。
	メンタルヘルス	51,54	精神衛生、精神の健康のこと。
や行	幼児教育センター	44	幼稚園教諭・保育士・保育教諭に対する研修の機会の提供や幼児教育に関する研究成果の普及・啓発、各園等からの相談業務等を行う地域の拠点。
A～Z	CEFR	17	“Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment”（外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠）の略。言語能力を評価する国際指標。
	ESD	33	環境、社会、経済の課題を学び、持続可能な社会をつくる力を育てる教育のこと。文部科学省は、SDGs（持続可能な開発目標）と連携して、学校教育に ESD を取り入れることを推進している。
	ICT	6,11,12,17,19,24,25,27,35,43,49,53,55,56,61,63,64,68,77,78	“Information and Communication Technology”の略で、情報通信技術のこと。
	R-PDCA サイクル	53,54,71	RESEARCH（調査）、PLAN（計画）、DO（実行）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の頭文字を取った検証改善サイクルのこと。行政政策や企業の事業活動にあたって計画から見直しまでを一貫して行い、それを次の計画・事業に生かそうという考え方に「調査」を加えたもの。
	Society5.0	7,11	狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、サイバー（仮想）空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムによる新たな社会。

### プラン策定にあたり、こどもたちからイラストを募集しました！

表紙のイラスト



**「大空へ」** 石村 柚依 さん

それぞれのいろんな個性を持った人が、大空へはばたいいく。

「作品名」 作者名  
作者による作品説明



**「世界に飛びたつつ子」** 桜木 晴斗 さん

つ子に羽をはやしてとんでいる姿を書きました。大人になって、塚から移動しても塚での思い出を覚えてほしい、という思いで書きました。



**「それぞれの道」** 山本 莉子 さん

今はみんな同じでも、いつかそれぞれちがう道を進んでいくことを表すために、全員手をあわせているけど、全員ちがう方向を向かせました。

表紙のイラストのほか、本冊子内で、「☆」マークをつけているイラストはこどもたちの作品です。



## 第4期未来をつくる堺教育プラン

発行年月 令和8(2026)年2月

堺市教育委員会事務局 総務部 教育政策課  
〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号  
TEL (072) 228-7925 (直) FAX (072) 228-7890  
ホームページ <https://www.city.sakai.lg.jp/>

堺市配架資料番号 1-K1-25-0214



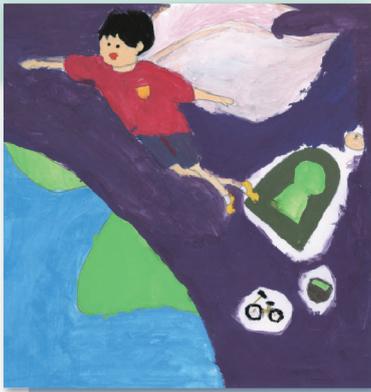
第4期

概要版

# 未来をつくる堺教育プラン

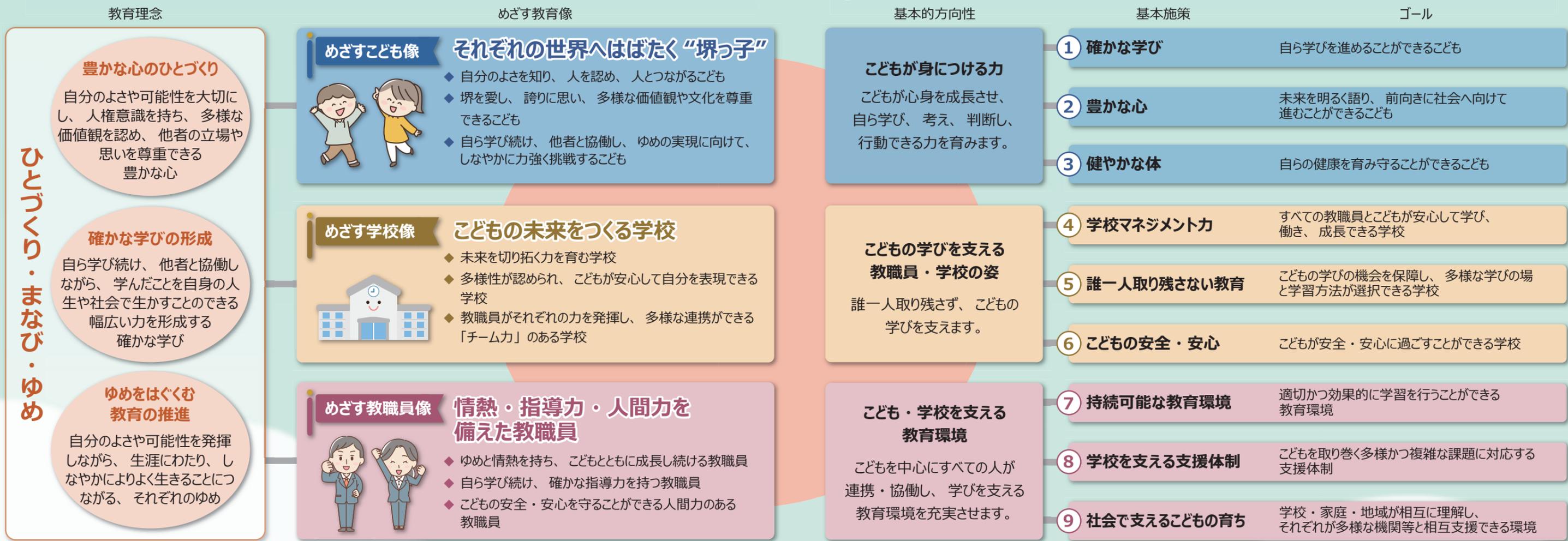
## ～未来を切り拓く力の育成～

令和8（2026）年度～令和12（2030）年度



令和8（2026）年2月  
堺市教育委員会

# プランの構成



ひとつひとつ・まなび・ゆめ

## プランの基本的視点

### (1) ウェルビーイング※

こどもや教職員等のウェルビーイングの向上をめざして、多様な取組を進めます。

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあり、将来にわたる持続的な幸福を含む状態



教職員の健康・安心



こどもの健やかな成長



地域・社会への広まり

### (2) 教育 DX

授業や校務・教務に ICT を活用することで、こどもの学びや多様なこどもへの対応の充実を図ります。また、校務・教務の効率化を進め、教職員が働きやすい環境につなげます。



よりよい授業による学びの充実



個々のこどもに応じた学習保障



働きやすく「働きがい」のある学校

### (3) 堺が進める「新たな学校のあり方」

同じ中学校区にある小学校と中学校を「学校群」というひとつのチームと考え、強みや資源を共有し、自主的・自律的な学校運営をめざします。また、学校の教育課題に対して連携して取り組む仕組みを推進します。



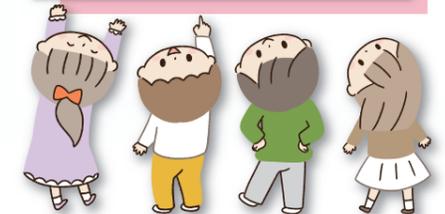
安心感の芽生え



多様な学びの実現



強みや資源の活用



## 策定の趣旨

本市では、平成 23 (2011) 年に、本市におけるはじめての教育振興基本計画「未来をつくる堺教育プラン」を策定して以来、平成 28 (2016) 年に策定の「第 2 期未来をつくる堺教育プラン」、令和 3 (2021) 年に策定の「第 3 期未来をつくる堺教育プラン(以下「第 3 期プラン」という)」へと継承、発展させ、「ひとづくり・まなび・ゆめ」という教育理念のもと、「それぞれの世界へはばたく“堺っ子”」を育成する教育の充実に取り組んできました。

第 3 期プランの成果を継承、発展させ、すべてのこどもの多様性が認められ、多様な選択ができる環境のもと、自分の人生の舵を取り、未来を切り拓くことができる力を育む教育の実現をめざし、「第 4 期未来をつくる堺教育プラン」を策定しました。

## 位置づけ

本プランは、教育基本法第 17 条第 2 項の規定に基づく、地方公共団体の定める教育の振興のための施策に関する基本的な計画であり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3 に基づく「堺市教育大綱」、「堺市基本計画 2030」や「堺市 SDGs 未来都市計画」等との整合を図りました。学校教育を軸として、「学校教育」、「家庭教育」、「社会教育」の 3 つを大切に、生涯学習とも関連付けながら、教育委員会以外の他の部局や多様な主体とより一層連携・協働して、施策を推進します。

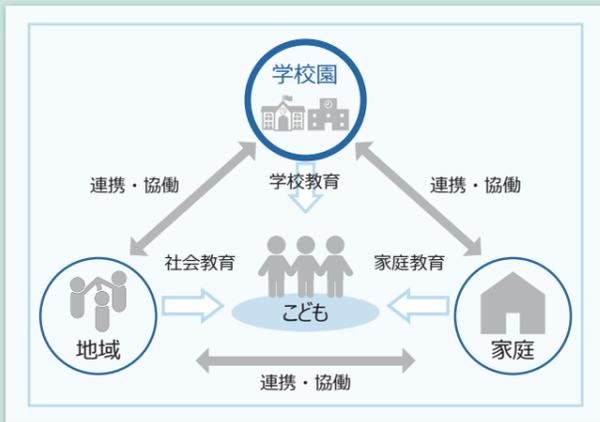
## 期間

令和 8 (2026) 年度から  
令和 12 (2030) 年度まで

## プランの範囲

学校教育を軸として、家庭や地域社会も含めた教育に関わる取組を範囲とします。

【プランの範囲】



## SDGs の視点

教育は、SDGs の目標 4 「質の高い教育をみんなに」として位置づけられ、「教育がすべての SDGs の基礎である」とも言われています。SDGs の視点を踏まえた教育を推進することで、多様な問題が絡み合い、解決が困難な現代の課題の重要性について、こどもが認識し、主体的・協働的に学び、行動するための能力・態度を育みます。

## プランの推進体制

本プランを進めるにあたっては、毎年教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、R-PDCA サイクルに基づいた進行管理を行います。

基本施策の目的（ゴール）に対する各年度の達成度や進捗状況の点検を行い、取組の課題や有効性を検証します。その結果を踏まえ、必要な改善・見直しを行い、基本施策の目的（ゴール）に向けて取り組みます。また、児童生徒の現状を把握し、適切に取組を実施するための調査を実施します。

## 基本的方向性

# 1

# こどもが身につける力

こどもが心身を成長させ、自ら学び、考え、判断し、行動できる力を育みます

## 基本施策 1 確かな学び

### ゴール 自ら学びを進めることができるこども

自ら学び続け、他者と協働しながら、学んだことを自身の人生や社会で生かすことのできる幅広い力を育む。

### 学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ力の育成

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 探究的な学びの充実
- 就学前から高等学校までの連続的な育ちと学びの実現
- グローバルに活躍できる力の育成

### 学習の基盤となる資質・能力の育成

- 情報活用能力の育成
- 言語能力の育成

### 成果指標

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うと答えた児童生徒の状況スコア※1

現状値 (令和 7 年度) 目標値 (令和 12 年度)

小 6 : 68.6% 小 6 : 74.0%  
中 3 : 65.4% 中 3 : 70.0%

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思うと答えた児童生徒の状況スコア※1

小 6 : 70.0% 小 6 : 75.0%  
中 3 : 63.5% 中 3 : 70.0%

学力が伸びた児童生徒の割合※2

小 5 国 : 77.5% 小 5 国 : 83.0%  
小 5 算 : 68.7% 小 5 算 : 74.0%  
中 2 国 : 59.4% 中 2 国 : 70.0%  
中 2 数 : 79.1% 中 2 数 : 84.0%

※1 状況スコア… (当てはまる (%) × 3 + どちらかといえば、当てはまる (%) × 2 + どちらかといえば、当てはまらない (%) ) / 3 として算出

※2 IRT (項目反応理論) を活用した堺市学力・学習状況調査において学力レベルを伸ばした児童生徒

## 基本施策 2 豊かな心

### ゴール 未来を明るく語り、前向きに社会へ向けて進むことができるこども

自分のよさや可能性を大切に、人権意識を持ち、多様な価値観を認め、他者の立場や思いを尊重できる豊かな心を育む。

### 自分のよさや可能性を發揮し、多様な価値観を尊重する心の育成

- 豊かな情操や道徳心の醸成
- 豊かな人権感覚の醸成

### 他者との関わり、社会性の育成

- 体験活動・交流活動の充実
- 伝統や文化芸術等に関する教育の充実

### 成果指標

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う (当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童生徒の割合

現状値 (令和 7 年度) 目標値 (令和 12 年度)

小 6 : 78.0% 小 6 : 85.0%  
中 3 : 76.6% 中 3 : 83.0%

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う (当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童生徒の割合

小 6 : 78.9% 小 6 : 81.0%  
中 3 : 69.3% 中 3 : 72.0%

## 基本施策 3 健やかな体

### ゴール 自らの健康を育み守ることができるこども

自分の健康に関心を持ち、目標に向かって継続的に自己改善することができる力を育む。

### 自分の健康への関心の形成と正しい知識の獲得

- 基本的な生活習慣の形成

### 目標に向けて継続して自己改善する力の育成

- 体力向上に向けた取組

### 成果指標

食に関心を持ち、自ら健全な食生活を実践しようとしている児童生徒の割合

現状値 (令和 7 年度) 目標値 (令和 12 年度)

小 5 : 87.7% 小 5 : 90.0%  
中 2 : 85.9% 中 2 : 90.0%

新体力テストの総合評価 A ~ C 判定の児童生徒の割合※3 (令和 6 年度)

小 5 : 59.3% 小 5 : 64.0%  
中 2 : 71.6% 中 2 : 74.0%

「運動やスポーツをすることは好き (当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童生徒の割合 (令和 6 年度)

小 5 : 87.8% 小 5 : 89.0%  
中 2 : 81.5% 中 2 : 83.0%

※3 総合評価は、新体力テストの 8 項目の得点を合計し、A ~ E の 5 段階で判定したもの (A が最も得点が高い)

# こどもの学びを支える教職員・学校の姿

誰一人取り残さず、こどもの学びを支えます

## 基本施策4 学校マネジメント力

基本施策

**ゴール** すべての教職員とこどもが安心して学び、働き、成長できる学校

校園長がリーダーシップを発揮し、信頼される教職員の育成、働きやすく「働きがい」のある職場環境の整備を推進する。また、不祥事ゼロをめざす。

基本施策の方向性

### 学校マネジメントの推進

- 学校経営の改善と整備
- 働きやすく「働きがい」のある環境の整備

### よりよい学校組織の構築

- 教職員の資質・能力の向上
- 信頼される教職員の育成



成果指標

前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合

現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
小 : 72.9%	小 : 80.0%
中 : 83.7%	中 : 86.0%

「私たちの職場では、お互いに理解し認め合っている(そつだ・まあそつだ)」と答えた教職員の割合

82.4%	90.0%
-------	-------

勤務時間外在校等時間が月平均45時間以下の教員の割合 (令和6年度) 76.4%

76.4%	87.0%
-------	-------

## 基本施策5 誰一人取り残さない教育

基本施策

**ゴール** こどもの学びの機会を保障し、多様な学びの場と学習方法が選択できる学校

個々のこどもに応じた指導の充実に向けて、教職員の専門性や指導力向上をめざす。また、教職員や学校が、学校内・関係機関と連携・協働し、学校全体でこどもを支える。

基本施策の方向性

### ともに認め合い、支え合う特別支援教育の充実

- 学びの場の見直し
- 就学前から卒業後までの切れめのない支援
- 教職員の専門性の向上

### 個々の環境や状況に応じた学習機会の確保

- 学びへアクセスできないこどもの学習機会の確保
- 日本語指導が必要なこどもの学習機会の確保
- 多様な学習ニーズへの対応

成果指標

「これまでに受けた授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていた(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童生徒の割合

現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
小6 : 82.4%	小6 : 90.0%
中3 : 76.4%	中3 : 85.0%

## 基本施策6 こどもの安全・安心

基本施策

**ゴール** こどもが安全・安心に過ごすことができる学校

多様な主体と連携し、身体的・精神的に安心できる環境を確保する。

基本施策の方向性

### 安心して過ごせる環境の充実

- 未然に防ぐ予防的な生徒指導
- 即座に対応し、継続的に支援する生徒指導
- 校内の教育相談体制の充実

### こどもの身体的な安全の確保

- 学校における安全対策の徹底
- 地域や関係機関等と連携したこどもの安全確保



成果指標

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童生徒の割合

現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
小6 : 74.8%	小6 : 80.0%
中3 : 79.6%	中3 : 85.0%

# こども・学校を支える教育環境

こどもを中心にすべての人が連携・協働し、学びを支える教育環境を充実させます

## 基本施策7 持続可能な教育環境

基本施策

**ゴール** 適切かつ効果的に学習を行うことができる教育環境

日々の学習や学校生活を支える教育環境、将来を見据えた持続可能な教育環境を充実させる。

基本施策の方向性

### 日々の学習や学校生活を支える教育環境の充実

- 安全、安心に過ごすことができる教育環境の充実



### 将来を見据えた持続可能な教育環境の充実

- 時代の潮流や社会的な課題に対応した教育環境の充実

成果指標

「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられている(そう思う・どちらかといえばそう思う)」と答えた学校の割合

現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
小 : 68.5%	小 : 95.0%
中 : 76.8%	中 : 95.0%

学校体育館の空調(冷房)の整備率

(令和6年度) 0%	100%
------------	------

## 基本施策8 学校を支える支援体制

基本施策

**ゴール** こどもを取り巻く多様かつ複雑な課題に対応する支援体制

学校だけでは解決が困難な多様かつ複雑な課題の解決に向けて、校外の多様な機関による支援の制度や仕組みの充実により、学校を支える。

基本施策の方向性

### 多様な機関等による連携した支援

- こども、家庭、学校を支える相談体制の充実
- 市役所内の部局間で連携した支援

### 制度や仕組みの充実

- 教育の機会均等に向けた経済的負担の軽減



成果指標

学校外で専門機関等の相談・指導等を受けている不登校児童生徒の割合

現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
23.8%	34.3%

## 基本施策9 社会で支えるこどもの育ち

基本施策

**ゴール** 学校・家庭・地域が相互に理解し、それぞれが多様な機関等と相互支援できる環境

家庭や地域の教育力の向上を図り、学校・家庭・地域が多様な機関等と連携しながら、地域社会全体で学びを支えることができる環境を整備する。

基本施策の方向性

### 地域住民や多様な機関・団体等との連携

- 市役所外の多様な主体との連携
- 学校や教育活動に関する情報の公開と発信による信頼の構築
- 部活動の地域連携・地域展開

### 学びを支える環境の充実

- 家庭教育支援の推進
- こどもを含む市民への学習機会の提供と充実



成果指標

「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった(そう思う・どちらかといえばそう思う)」と答えた学校の割合

現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
小 : 83.7%	小 : 90.0%
中 : 90.7%	中 : 94.0%

「読書は好き(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童生徒の割合

小6 : 68.6%	小6 : 76.0%
中3 : 51.8%	中3 : 66.0%

市立図書館における市民一人当たり年間貸出点数

(令和6年度) 4.6点	4.8点
--------------	------

# プラン策定のコンセプト

本プラン策定にあたり、こどもや本市教育に携わる人が教育を**自分事として捉えること**、本プランを誰が読んでも理解できるよう、**わかりやすく読みやすいものとする**ことの2つをコンセプトとして掲げました。

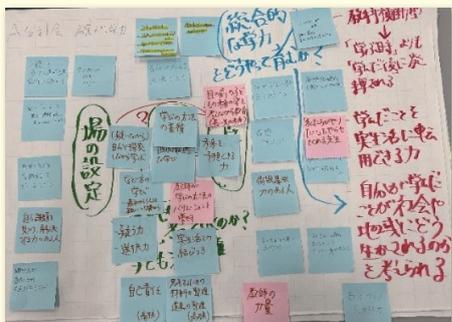
## I

### 自分事として捉えること

本市教育に携わるすべての人が、**本市の教育を自分事と捉え、主体的・協働的に教育活動に取り組めるようになる**ことをめざす。

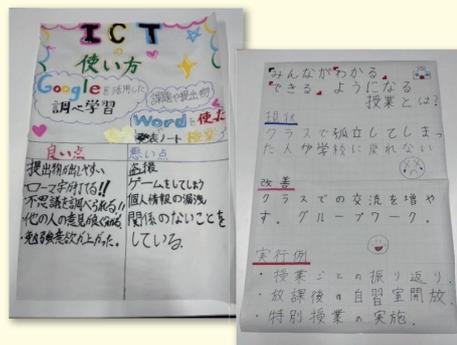
#### 教職員の合同ワーキンググループ

- 教員と教育委員会事務局職員の合同でワーキンググループを結成。
- ゴールや取組、評価方法等について協議を実施。



#### こどもの参画

- 生徒会リーダー講習会や小学校での出前授業で、こどもたちから意見の聞き取りを実施。
- 授業やICTの利活用、学校設備等についてグループで議論を実施。



## II

### わかりやすく読みやすいものとする

多くの人々に興味を持ってもらい、読んでもらえるよう、「わかりやすさ」と「読みやすさ」を意識する。



1. 基本的方向性及び基本施策  
内容を統合・整理

2. 全体構成について  
内容の精選や、図表の活用により読みやすいボリュームに

3. こども版の作成  
こども向けにわかりやすくまとめたこども版を作成

※表紙と3ページのイラストはこどもの作品です

### 第4期未来をつくる堺教育プラン【概要版】

発行年月 令和8(2026)年2月

堺市教育委員会事務局 総務部 教育政策課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号 TEL (072) 228-7925 FAX (072) 228-7890

ホームページ <https://www.city.sakai.lg.jp/> 堺市配架資料番号 1-K1-25-0215

ばん  
こども版



だい き み らい  
第4期未来をつくる

さかいきょうい  
堺教育プラン

れいわ ねんど れいわ ねんど  
令和8(2026)年度～令和12(2030)年度

れいわ ねん がつ  
令和8(2026)年2月

さかい し きょうい く い いん かい  
堺市教育委員会

ほんべん がいようばん しりょう  
本編と概要版(まとめ資料)はココから





## なぜプランを作ったの？

堺市は、こどものみなさんが学校などで安心して楽しく学べることをめざしています。だから、学校の先生やみなさんの家の人、近くに住んでいる人たちなど、全員で力を合わせて教育を進めています。これから、もっとみなさんが、しっかりと自分の考えを持ち、友だちと協力して、未来に向かって幸せに生きる力を育てられる堺市になるためにプランを作りました。

みなさん一人ひとりが大切な存在です。みなさん一人ひとりの意見がとても大切です。このプランは大人とこどものみなさんが一緒に教育について考えていくための計画です。だから、このプランを読んで、「こうなりたいな」、「こんな風に学びたいな」など、学校や社会をより良くするために自分の考えや意見を持ってほしいと思います。そして、近くの大人に伝えてもらいたいと思います。大人はその意見をよーく聴いて「何がみなさんにとって良いことなのか」を考えます。こどものみなさんが自分たちで自分たちの未来を切り拓いていけるよう、大人はみなさんを支え、一緒に進んでいきます。



だい き みらい さかいきょういく つた  
**「第4期未来をつくる堺教育プラン」で伝えたいこと**

さかいし たいせつ  
 堺市で大切にしている  
 キーワードだよ



**ひとづくり・まなび・ゆめ**



おとな  
 大人も子どももみんなで  
 すす  
 進めていくんだね！

き おし ちから  
**やる気いっぱい**で**教える力**と  
 おも せんせい  
**思いやり**がある**先生**



せかい  
**それぞれの世界へはばたく**  
 さかい こ  
**“堺っ子”**



みらい がっこう  
**こどもの未来をつくる学校**



ほうこうせい  
**方向性 1**

じぶん まな すす  
**自分で学びを進める**  
 おも きも も  
**思いやる気持ちを持つ**  
 す  
**すこやかに過ごす**

ほうこうせい  
**方向性 2**

がっこう  
**学校をよりよくなる**  
 まな きも おうえん  
**「学びたい！」気持ちを応援する**  
 あんしん す  
**こどもが安心して過ごせるようにする**

ほうこうせい  
**方向性 3**

あんしん まな がっこう  
**安心して学べる学校にする**  
 ひと がっこう ささ  
**たくさんの人で学校を支える**  
 ちいき ささ  
**地域の人みんなでこどもを支える**



## だれのためのプランなの？

このプランは、こどものみなさんのためのものです。学校や家などで、どんなことを、どのように、だれと一緒に  
がっこう いえ  
 学ぶのかなど、みなさんと、みなさんの周りまわにいるすべての大人おとなに向けて作りました。



## どうやって作ったの？

このプランは、みなさんの未来みらいがより良くなるように、たくさんよの大人おとなが集まって話し合あつって作りました。  
はな あ つく  
 また、先生せんせいや、中学校ちゅうがっこう生徒会せいたいの代表だいひょう、小学校しょうがっこうのみなさんからの意見いけんもお聞ききしました。



先生や教育委員会事務局の職員が集まって、  
 これからの堺市の教育について話し合いました。



小学校での出前授業の1コマです。  
 みなさんからたくさん意見がでました。

はじめて、こども版を作ったんだって！





いま しゃかい  
今の社会ではどんなことが起きているの？

かず すく  
こどもの数が少なくなり、  
としよ かた ふ  
お年寄りの方が増えています。

ちいき なか  
地域の中のつながりが  
うす  
薄れてきています。

パソコンやインターネットがたくさん  
つか  
使われています。  
がっこう つか じゅぎょう  
学校でも、タブレットを使った授業  
ふ  
が増えています。

ふとうこう かだい  
いじめや不登校などの課題  
かいけつ とちゅう  
は、まだまだ解決の途中です。

かんが かた ひと まな  
いろいろな考え方の人といっしょに学ん  
しごと  
だり、仕事をしたりすることが増えてい  
ふ  
ます。

なかよ しあわ げんき い  
みんなが仲良く幸せに元気に生きて  
たいせつ  
いくことを大切にしています。



さかいし きょういく たいせつ  
堺市の教育で大切にしていること

きょういくりねん  
教育理念「ひとづくり・まなび・ゆめ」

## ひとづくり

こころ そだ  
～ゆたかな心を育てよう～



- ◆ じぶん だいじ  
自分のよさを大事にすること
- ◆ ほか ひと きもち わ  
他の人の気持ちを分かろうとすること
- ◆ じぶん とも たいせつ おも  
自分も友だちも大切に思えること
- ◆ いろいろ じぶん かんが  
いろんなことを自分で考えること

## まなび

まな ちから  
～しっかり学ぶ力を  
身につけよう～



- ◆ じぶん えら き  
自分で選んだり決めたりすること
- ◆ まな つづ  
学び続けること
- ◆ みんな きょうりやく  
みんなと協力すること
- ◆ じぶん せいかつ い  
自分の生活でも生かすこと

## ゆめ

そだ  
～ゆめを育てよう～



- ◆ じぶん よ い  
自分の良いところを生かすこと
- ◆ ゆめ む たの まえむ  
ゆめに向かって楽しく前向きにすすむこと
- ◆ がっこう かてい ちいき ひと きょうりやく  
学校や家庭、地域の人たちが協力すること
- ◆ さかいし れきし ぶんか たいせつ  
堺市の歴史や文化を大切にすること

## がっこう せんせい こんな学校や先生をめざします

どんなことをするのかは、次のページに  
書いているよ。

### き おし ちから おも せんせい やる気いっぱい教える力と思いやりがある先生

- ◆ ゆめとやる気を持ち、子どもと一緒に成長することができる先生
- ◆ 子どもや学校のためにずっと学び続ける、授業が魅力的で、相談に乗ってくれる先生
- ◆ 子どもの安全と安心を守ることができる先生



### みらい がっこう 子どもの未来をつくる学校

- ◆ 子どもたちが自分で学び続け、みんなと協力できる力を育てる学校
- ◆ 一人ひとりのちがいが大切にされる、子どもが安心して自分らしくいられる学校
- ◆ 先生たちがいろんな人と協力できる、みんなで助け合える学校



## がっこう せんせい 学校や先生がすること

いろいろなひととちからあわせてすすめていきます！

### ① がっこう 学校をよりよくする

みなさんがしっかりと学び、すこやかに成長できるように、先生たちも学び続け、みなさんと一緒に成長します。また、先生たちが、安心して働けるより良い学校をみんなで作ります。



### ② まな き も おうえん 「学びたい！」気持ちを応援する

みなさんの中には学習で困っていることや悩んでいる人がいるかもしれません。みなさんの「学びたい！」という気持ちを応援し、一人ひとりの困りごとや悩みごとに寄り添って、しっかり学ぶことができる環境を作ります。



### ③ あんしん す こどもが安心して過ごせるようにする

みなさんの声を大切にして相談できるような場所を作るなど、みなさんが安心して過ごせる学校になるよう、先生たちも取り組み、みなさんを守ります。



## きょういくいいんかい まわ おとな 教育委員会や周りの大人がすること

がっこう せんせい だけでなく、きょういくいいんかい  
学校や先生だけでなく、教育委員会  
やみなさんのまわりのおとなひと、みんな  
で力を合わせます！

### ① あんしん まな がっこう 安心して学べる学校にする

みなさんがまいにち たの まな がっこう あんしん す  
みなさんが毎日、楽しく学んだり学校で安心して過ごしたりできるように、学校の古くなって  
きたところをなお たいいくかん  
きたところを直したり、体育館にエアコンをつけたり、インターネットなどのじゅんび  
準備をします。



### ② ひと がっこう ささ たくさんの人で学校を支える

せんせい いえ ひと ちいき ひと きょういくいいんかい しやくしょ ひと くわ  
先生たちや、みなさんの家の人や地域の人、教育委員会や市役所の人、いろいろなことに詳しい  
せんもんか ひと がっこう ささ  
専門家など、たくさんの人がつながって、みなさんや学校を支えます。



### ③ ちいき みんなで こどもを支える

がっこう きょういくいいんかい ひと みちか ひと まわ ひと きょうりよく  
学校や教育委員会の人、身近な人など、みなさんの周りのすべての人が協力して、  
みなさんがずっとまな つづ おうえん  
みなさんがずっと学び続けられるように応援します。たとえば、放課後に過ごせる場所  
かんが としょかん ほん よ としょかん  
を考えたり、いつでもどこからでも図書館の本を読めるようにしたりします。図書館を  
いごこち よ い ばしょ よ  
居心地の良い、行きたくなる場所になるよう、より良くします。



## おとな かんが 大人が考えていること

みなさんはどんなことをしたいかな。  
たとえば、おとなの人は、こんなことを考えています。

### それぞれの世界へはばたく“堺っ子”



- ◆ お互いの気持ちを考えながら、みんなと力を合わせたり、助け合ったりできることも
- ◆ 堺のことが大好きで、自分の国だけではなく、いろんな国の文化や考え方も大切にできることも
- ◆ 学び続け、未来を切り拓き、社会のことを考えて行動できることも



#### ① 自分で学びを進める

知りたいことや興味のあることを見つけて、自分で「どうしたらいいかな？」と考え、「これをやってみよう！」と挑戦する力、上手にタブレットなどを使って学ぶ力を身につける。



#### ② 思いやる気持ちを持つ

自分のいいところを見つけて自信を持ち、他の人のいろいろな考えや文化を大切にして、自分のことも他の人のことも大切に思い、みんなで力を合わせる。



#### ③ すこやかに過ごす

みんなが食事や運動についてきちんと学び、生活リズムを整え、すこやかに過ごす。



これから計画を進めていきます

3 つのポイント  
を  
忘れずに進めます！



みなさんは  
どうしていきたいですか？



1 みんなが幸せに過ごすこと（ウェルビーイング）

子ども先生も、みなさんの家の人も、近くに住んでいる人もみんなが、すこやかに  
幸せに過ごすこと。

2 タブレットやパソコンを使って学ぶこと、お仕事をすること（教育 D X）

子ども先生もタブレットなどを勉強やお仕事にを使って、より良い学び方や  
お仕事の仕方を考えること。

3 近くの学校同士で力を合わせる（堺が進める「新たな学校のあり方」）

近くの小学校と中学校をひとつのチームとして、一緒に力を合わせて学んだり、  
助け合ったりすること。

プランを読んで考えたことや思ったことを書いてみてくださいね。





## こどものみなさんへ



みなさんは、一人ひとりが大切な存在です。

みなさんは、差別されたり、いじわるをされたりすることなく、幸せに生きることができます。

みなさんは、学校や地域のことで気になることがあった時は、安心して周りの大人に話していいんです。

大人は、みなさんを守ります。

みなさんは、大切にされ、安全・安心に生きることが約束されています。

そして、自分の考えを持って、学校や社会をより良くするために意見をすることができるのです。

大人はみなさんの意見をしっかり聴いて考えます。

もし困った時は近くの大人の人に伝えてください。

大人が力を合わせて、みなさんを支え、約束を守ります。一緒に考え、ともに学んでいきましょう。

第4期未来をつくる堺教育プラン【こども版】

発行年月 令和8（2026）年 2月

堺市教育委員会事務局 総務部 教育政策課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号 TEL(072)228-7925 FAX(072)228-7890

ホームページ <https://www.city.sakai.lg.jp/>

堺市配架資料番号 1-K1-25-0216



# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）の修正内容について

## 本編【パブリックコメントによる修正】

修正箇所	ページ	修正前	修正後
第2章 本市の教育を取り巻く現状（4）	14	図12 不登校児童数の推移/不登校生徒数の推移 不登校児童数 不登校生徒数	図12 不登校児童数の推移/不登校生徒数の推移 不登校児童生徒数（小学校） 不登校児童生徒数（中学校）
第2章 「第3期未来をつくる堺教育プラン」の総括 基本的方向性4	23	図31 家庭の教育力 図32地域の教育力 【教員】 【教員】 【保護者】 【保護者】	図31 家庭の教育力 図32地域の教育力 【保護者】 【保護者】 【教員】 【教員】
第3章 基本的視点 教育DX	35	学校園の校務・教務にICTを活用することで、効率化が進み、教職員が働きやすい環境につながります。	学校園の校務・教務にICTを活用することで、効率化が進み、 <b>教職員が児童生徒と向き合う時間が増えるなど、働きやすく「働きがい」のある環境につながります。</b>
用語解説	91	記載なし	<b>研修観の転換 従来の「講師の講話を聞き、正しい知識を身につけることを中心とした研修」から、「研修に参加する教職員自身が教育実践を振り返り、他者との対話を通して新たな気付きや学びを得ていくことを重視する研修」へと転換を図ること。</b>

## 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）の修正内容について

本編【その他 数値更新、より分かりやすく適切な表現や文言への修正等】

修正箇所	ページ	修正前	修正後
第2章 プラン策定の コンセプト	27	こどもへの <u>意見聴取</u>	こどもの <u>参画</u>
第3章 基本的視点 教育DX	35	学校群の仕組みを活用した遠隔交流学习	<b>同じ中学校区にある学校への学習成果発表</b>
第3章 基本施策1 確かな学び	44	高等学校教育の <u>推進</u>	高等学校教育の <u>充実</u>
第3章 基本施策4 学校マネジメント力	54	不祥事の未然防止 <u>対策</u> の徹底	不祥事の未然防止 <u>策</u> の徹底
第3章 基本施策8 学校を支える支援 体制	66	◆小学校給食費の無償化 ～小学校及び支援学校小学部の給食費無償化 を <u>段階的に実施</u> します。	◆小学校給食費の無償化 ～小学校及び支援学校小学部の給食費無償化 <u>を実施</u> します。

## 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）の修正内容について

本編【その他 数値更新、より分かりやすく適切な表現や文言への修正等】

修正箇所	ページ	修正前	修正後
資料編	79	資料編 1 用語解説	資料編 1 懇話会について 2 ワーキンググループの取組について 3 こどもの意見について 4 パブリックコメントの結果 5 用語解説
資料編 用語解説 スペシャルサポート ルーム	93	「 <u>校内教育支援センター、校内教育支援教室、校内適応指導教室等と呼ばれる自身のクラスに入ることが難しい児童生徒を支援するための特別な教室（保健室は除く）のこと。</u> 」	「 <u>校内教育支援教室等と呼ばれる自身のクラス以外で過ごしたいと思う児童生徒を支援するための特別な教室（保健室は除く）等のこと</u> 」

◆上記以外に、文言等の軽微な修正を行ったほか、表紙デザイン・挿絵を追加しました。

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）こども版の修正内容について

## 表紙



### 修正前

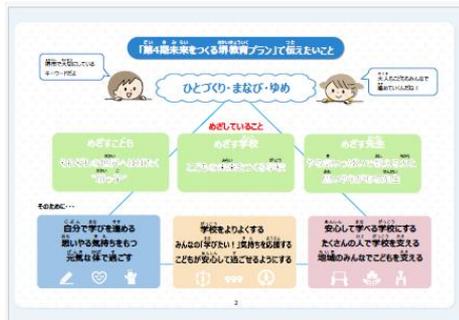
・未作成（仮置き）

### 修正後

- ・表紙デザインの作成
- ・本編と概要版へのリンクのQRコードを記載（予定）

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）こども版の修正内容について

## P.2



なぜプランを作ったの？

堺市は、こどものみなさんが学校などで安心して楽しく学べることをめざしています。だから、学校の先生やみなさんの家の人、近くに住んでいる人たちなど、全員で力を合わせて教育を進めています。

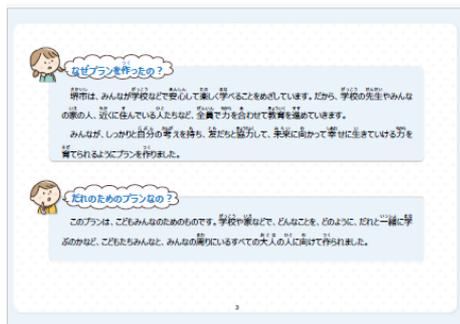
これから、もつみなさんが、しっかりと自分の考えを持ち、責任を持って、未来に向かって幸せに生きる力を育てられる堺市になるためにプランを作りました。

みなさん一人ひとりが大切で存在です。みなさん一人ひとりの個性がとても大切です。このプランは大人とこどものみなさんが一緒に教育について考えていくための計画です。だから、このプランを通して、「こころのいい」、「こころを育む」、「こころを育てる」、「こころを育てる」といって、みんなの個性を育てたいと思います。そして、近の大人に伝えたいと思います。大人はその個性をよーく聞いて「何がみなさんにとって良いことなのか」を考えます。こどものみなさんが自分たちで自分たちの未来を切り拓いていけるよう、大人はみなさんを支え、一緒に進んでいきます。

修正前	修正後
<ul style="list-style-type: none"> <li>「第4期未来をつくる堺教育プラン」で伝えたいこと</li> <li>全体の体系図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>P.3に移動</u></li> <li>・<u>修正前P.3の上部、「なぜプランを作ったの？」を記載</u>                      表記のゆれを調整、より伝わりやすい文言へ修正</li> <li>・<u>こども基本法の観点から、「こどもの意見表明」についての文言を追記</u></li> </ul>

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）こども版の修正内容について

## P.3



修正前	修正後
<ul style="list-style-type: none"> <li>「なぜプランを作ったの？」</li> <li>「だれのためのプランなの？」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<u>なぜプランを作ったの？</u>」をP.2へ移動</li> <li>・「<u>だれのためのプランなの？</u>」をP.4へ移動</li> <li>・<u>修正前P.2に記載していた全体の体系図を記載、デザインの修正</u> より適切に伝わるように文言の修正</li> <li>・<u>プラン本編の対応箇所の追記</u></li> </ul>

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）こども版の修正内容について

## P.4



修正前	修正後
<p>・「今の社会で起きていることって何？」</p>	<p>・「今の社会で起きていることって何？」をP.5へ移動</p> <p>・修正前P.3に記載していた「だれのためのプランなの？」を記載 文言の修正</p> <p>・修正前P.5に記載していた「どうやって作ったの？」を記載 写真の追加、より取組の意図が伝わるように文言の追記・微修正（「みんなの未来がより良くなるように」等）</p>

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）こども版の修正内容について

## P.5



### 修正前

・「どうやって作ったの？」

### 修正後

- ・「どうやって作ったの？」をP.4へ移動
- ・修正前P.4に記載していた「今の社会で起きていることって何？」を記載文言の修正（今の社会ではどんなことが起きているの？）

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）こども版の修正内容について

P.6



修正前	修正後
<p>「ひとづくり」 4つめの項目（未記載）</p> <p>「まなび」 自分で選んだり決めたりできること</p> <p>「ゆめ」 <u>堺市の大切な歴史や文化について学ぶこと</u></p>	<p>・よりわかりやすく、伝わるように文言の調整</p> <p>「ひとづくり」の項目に4つめを追記（<u>いろいろなことを自分で考えること</u>）</p> <p>「まなび」 自分で選んだり決めたり<u>すること</u></p> <p>「ゆめ」 <u>堺市の歴史や文化を大切にすること</u></p> <p>・<u>プラン本編の対応箇所の追記</u></p>

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）こども版の修正内容について

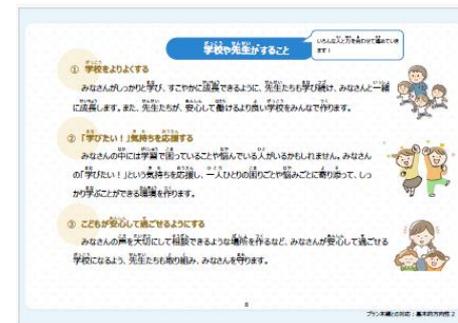
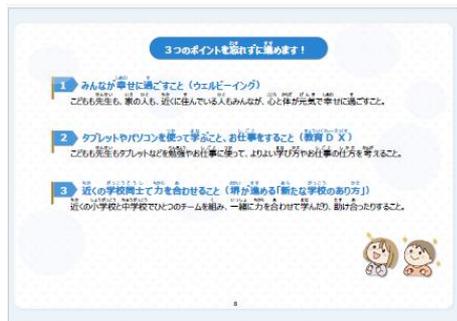
## P.7



修正前	修正後
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こんな こども・学校・先生をめざします！」</li> <li>・「めざすこども」</li> <li>・「めざす学校」</li> <li>・「めざす先生」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こんな学校や先生をめざします」（「こども」を削除）</li> <li>・「めざすこども」の内容をP.10へ移動</li> <li>・「めざす学校」             <ul style="list-style-type: none"> <li>「めざす学校」の文言の削除、デザインの修正</li> </ul> </li> <li>・「めざす先生」             <ul style="list-style-type: none"> <li>「めざす先生」の文言の削除、デザインの修正</li> </ul> </li> <li>・<u>プラン本編の対応箇所の追記</u></li> </ul>

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）こども版の修正内容について

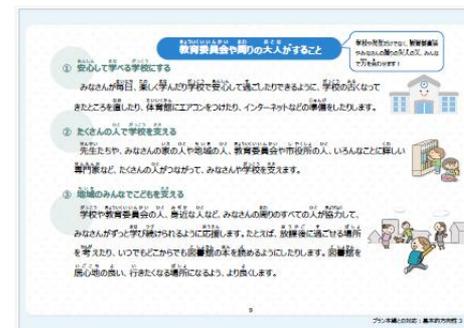
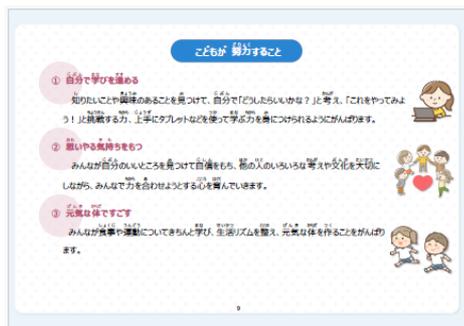
## P.8



修正前	修正後
<p>・「3つのポイントを忘れずに進めます！」</p>	<p>・「3つのポイントを忘れずに進めます！」をP.11へ移動</p> <p>・修正前P.10に記載していた「先生や学校が努力すること」を、「学校や先生がすること」として記載</p> <p>表記のゆれを調整、より伝わりやすい文言へ修正、イラストの変更</p> <p>・プラン本編の対応箇所の追記</p>

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）こども版の修正内容について

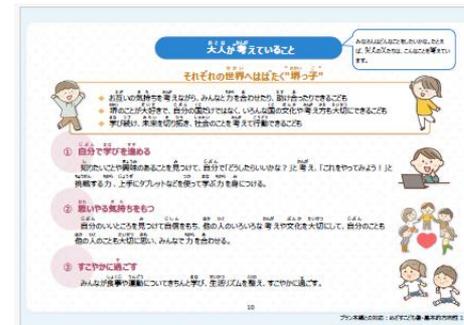
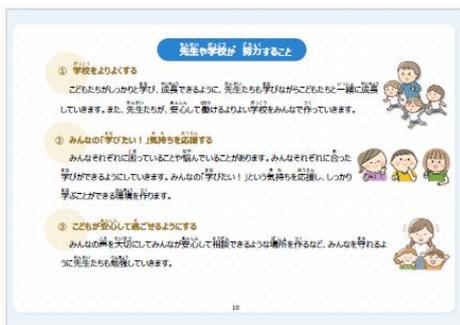
P.9



修正前	修正後
<p>・「こどもが努力すること」</p>	<p>・「こどもが努力すること」をP.10へ移動</p> <p>・修正前P.11に記載していた「教育委員会や周りの大人の人たちが努力すること」を、「教育委員会や周りの大人がすること」として記載</p> <p>表記のゆれを調整、より伝わりやすい文言へ修正</p> <p>・プラン本編の対応箇所の追記</p>

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）こども版の修正内容について

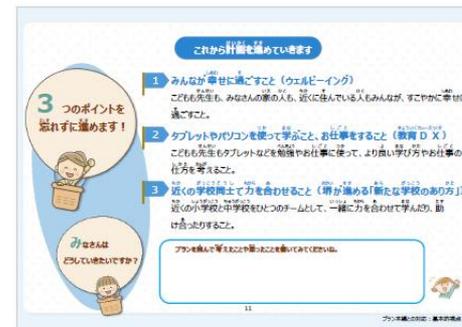
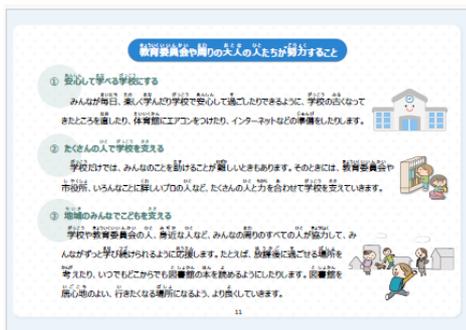
**P.10**



修正前	修正後
<p>・「先生や学校が努力すること」</p>	<p>・「先生や学校が努力すること」をP.8へ移動</p> <p>・修正前P.7に記載していた「めざすこども」を「大人が考えていること」として記載。</p> <p>・P9に記載していた「こどもが努力すること」を記載（タイトルは削除）</p> <p>表記のゆれを調整、より伝わりやすい文言へ修正、イラストの変更</p> <p>・プラン本編の対応箇所の追記</p>

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）こども版の修正内容について

**P.11**



修正前	修正後
<p>・「教育委員会や周りの大人の人たちが努力すること」</p>	<p>・「<b>教育委員会や周りの大人の人たちが努力すること</b>」をP.9へ移動</p> <p>・<b>修正前P.8に記載していた「3つのポイントをお忘れずに進めます！」を「これから計画を進めていきます」として記載。</b></p> <p>表記のゆれを調整、より伝わりやすい文言へ修正、イラストの変更</p> <p>・<b>感想や考えを書く欄を追記</b></p> <p>・<b>プラン本編の対応箇所の追記</b></p>

# 第4期未来をつくる堺教育プラン（案）子ども版の修正内容について

## P.12（背表紙）



修正前	修正後
<p>・奥付</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こどものみなさんへ」として、こどもの人権の観点からのメッセージを追記</li> <li>・奥付に「【子ども版】」を追記</li> </ul>